

**(仮称) 横浜市中区海岸通計画
第2分類事業判定届出書**

添付資料に関する補足資料

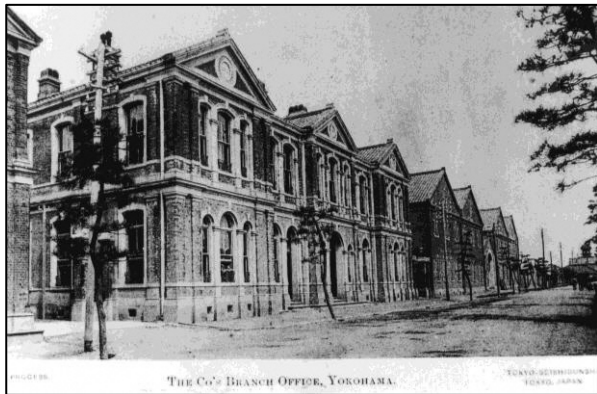
1. 保存建物について

2021年11月

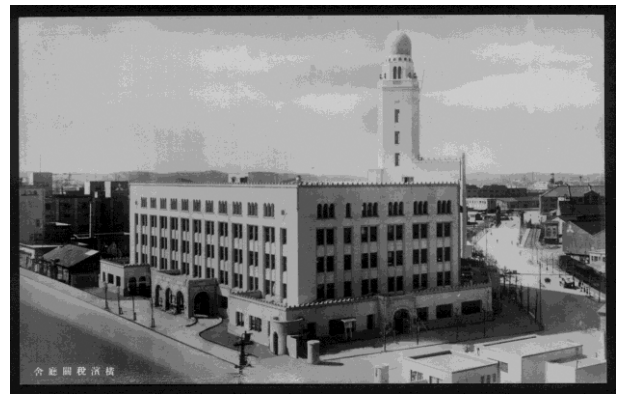
1. 保存建物について

1-1 海岸通の歴史

海岸通りは、本計画区域に存在する横浜郵船ビルの他、横浜税関本関庁舎、横浜貿易会館、横浜海洋会館（元大倉商事横浜出張所）、昭和ビル、老舗レストランの SCANDIA など、個性豊かな歴史的建造物が横浜らしい通りの景観を形成しています。



1894(明治 27)年頃の日本郵船横浜支店と海岸通り
(日本郵船歴史博物館所蔵)



震災復興期の海岸通りと横浜税関
(「横浜税関庁舎」(横浜市中央図書館所蔵))

1-2 横浜郵船ビルの歴史

明治 21 年(1888)に竣工した日本郵船横浜支店の初代ビルはイギリス人建築家 J. ダイアック設計による赤レンガ造りの建築物でしたが、関東大震災によって崩れてしまい、2 代目横浜支店ビルとして和田順頭設計により昭和 11 年(1936)に完成しました。

平成 15 年(2003)に行われた大規模改修では、内装などを竣工時のとおりに忠実に復元する優れた改修を行い、建築物外観の保存により街並との調和を保ちながら地域の活性化に寄与した事なども評価され、第 15 回 BELCA 賞（ベストリフォーム部門）を受賞しています。建築物は国・県・市による文化財指定は受けていませんが、海運の歴史を通じて横浜の人・物・文化の歴史が分かる「日本郵船歴史博物館」として一般公開されています。



竣工時の日本郵船横浜支店
(日本郵船歴史博物館所蔵)



現在の横浜郵船ビル

以下に、横浜郵船ビルの概要を示します。

表1 横浜郵船ビル概要

竣工年月	1936年（昭和11年）9月
構造／規模	RC造3階
設計／施工	和田順頭建築事務所／大林組
所在地	神奈川県横浜市中区海岸通3-9
建築構造	RC造
敷地面積	5,522.32 m ²
延床面積	7,381.75 m ² (1階用途変更部分 1,848.66 m ²)
空調設備	個別パッケージ方式
給湯設備	各階給湯室局所給湯
昇降設備	乗用エレベータ17名用2基(1,150kg)

※「(仮称) 横浜市中区海岸通計画 計画段階配慮書」の資料編 (p. 資-26) 抜粋

1-3 横浜郵船ビルの保全活用

計画区域内に存する横浜郵船ビルは横浜市景観計画において「歴史的建造物」に位置付けられており、これに至る「新港14号線日本大通」は「景観重要道路（見通し景観形成街路）」に位置付けられています。

計画建築物は歴史的建造物である横浜郵船ビルを全面的に保全するとともに、活用に向けて必要な改装を行う計画とします。また、「景観重要道路（見通し景観形成街路）」に指定されている「新港14号線日本大通」沿いから横浜郵船ビルを眺望する際の景観に配慮し計画区域の東側に高層棟を配置し、海岸通第7001号に対して概ね平行に配置するとともに、既存の保全する横浜郵船ビルと海岸通り側の壁面位置を合わせます。

※「(仮称) 横浜市中区海岸通計画 第2分類事業判定届出書添付資料」(p. 1-5) 抜粋

●景観形成に配慮した建物配置計画

【景観形成上の課題（配慮書時点）】

- ①歴史的建造物が部分保存となる
- ②見通し景観を遮る
- ③海側に対して、長大な壁面となる

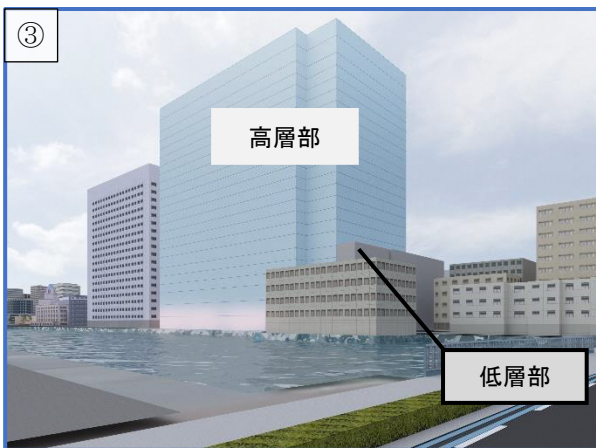
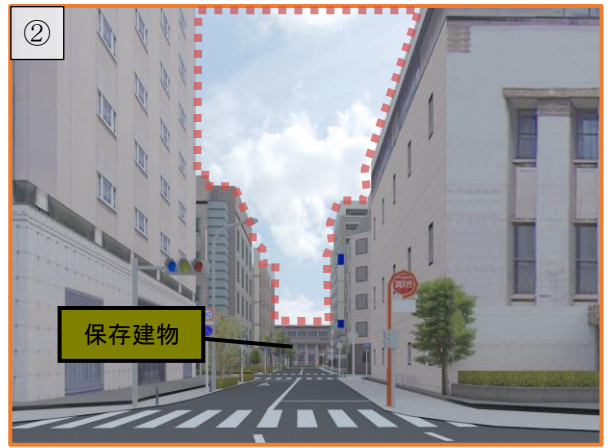
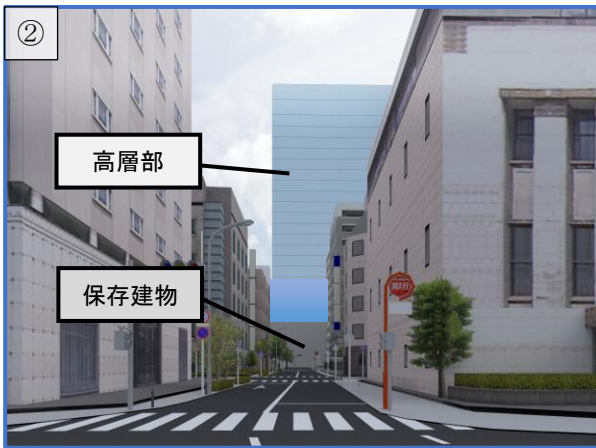
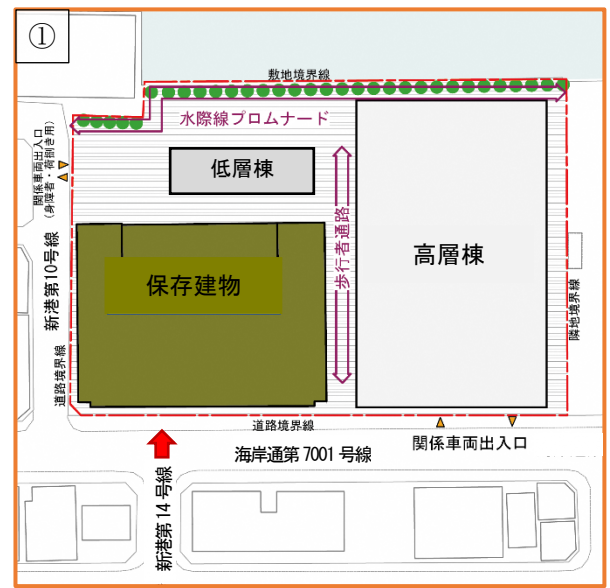
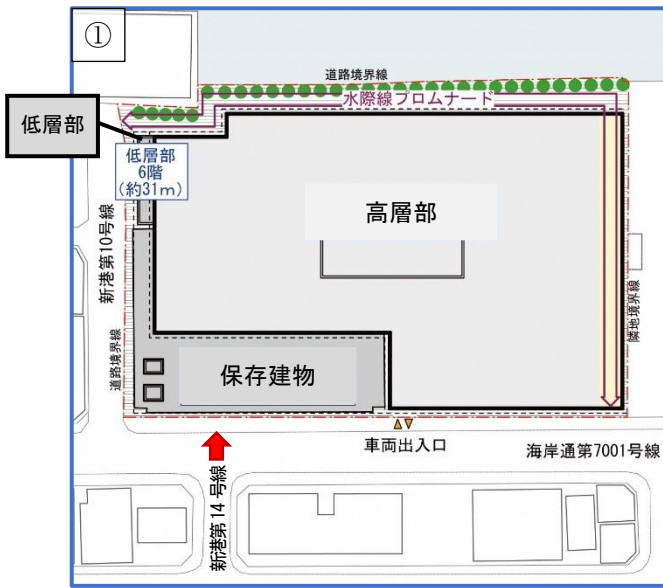
【改善点（判定届出書時点）】

- ①歴史的建造物を全館保全し景観を維持
- ②高層棟を東側に寄せ見通し景観を維持
- ③海岸通り及び海側からの見つけ幅を小さくし、歩行者空間の圧迫感を軽減

この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取り扱いにご注意願います。

【配慮書時点の配置計画】

【判定届出書時点の配置計画】



※イメージ図であり、確定した内容ではありません。設計は基本計画段階であり、建物の外観、ブロックプラン、形状については、一つのイメージとして示したものです。
 今後地区計画等の規定に基づき、機能面、景観、コスト等の観点から総合的に検討し、決定していきます。

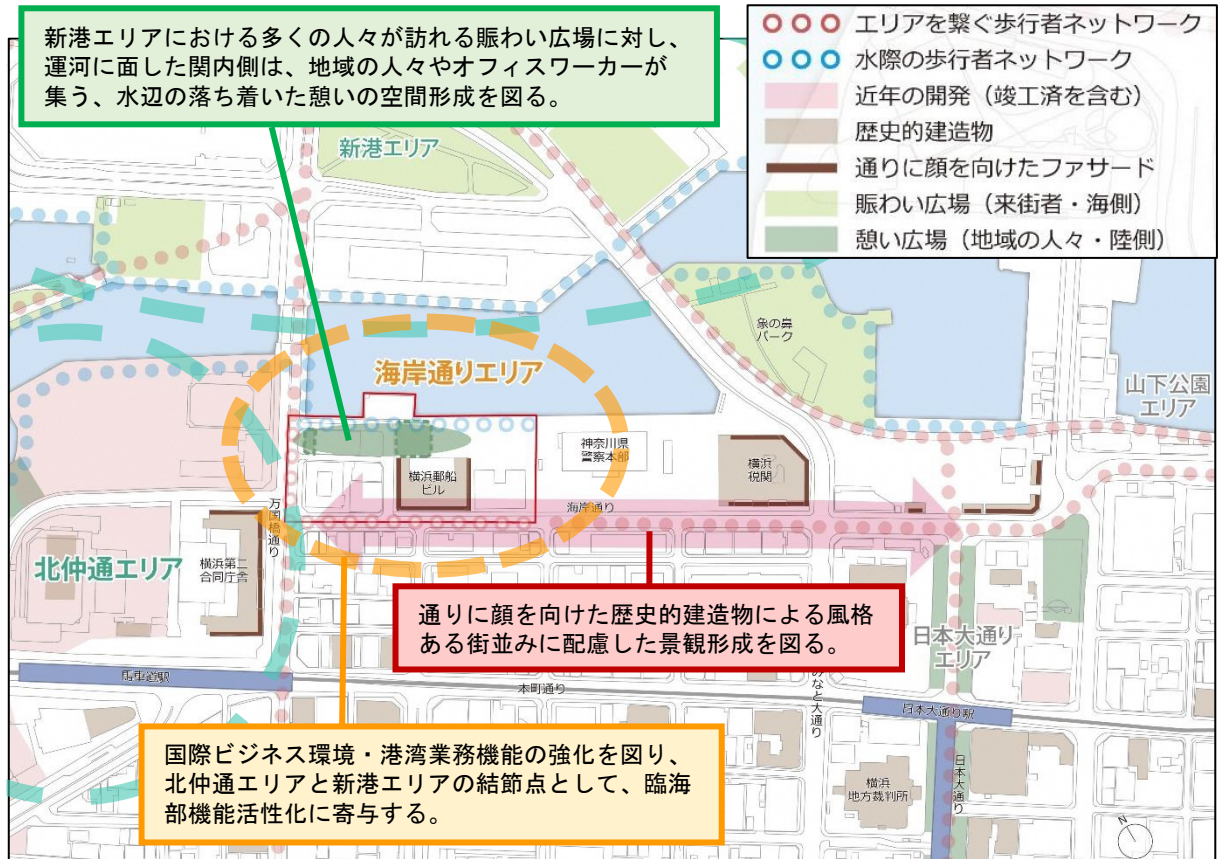
図1 横浜郵船ビルの保全活用



図2 保存建物のイメージ（南側より）



図3 保存建物のイメージ（南西側より）



※基盤地図情報（国土地理院）を加工して作成

参考図 本計画におけるまちづくり